

「令和3年度 竹田から輝く。一時の名匠講演会」に寄せて

R3年11月9日

校長 西山 和孝

本日は、竹田市および竹田市教育委員会主催の「竹田から輝く。一時の名匠講演会」に、本校生をお招きいただき、誠にありがとうございます。

今から69年前の昭和27年に、川端康成先生から竹田高校の先輩達が、直接話を聴く機会がありました。講演を聞いた当時の生徒は、心を打ち震わせ、その体験を糧とし社会で活躍する人材が、多く輩出されたそうです。

更にさかのぼること、大正時代には、小説家の田山花袋氏が憧れの地、竹田を訪れ、「魚住の滝」を前に短歌を詠っています。『あくがれの竹田の町のうすくしき みどりの袖を けふ見つるなり』という短歌です。

この二つの史実が物語っていることに、人生を歩む中で、何かに強く「憧れる」ということは、その人の人生を前に進めていく大きなエネルギーになる、ということがある様に思います。1か月前に、3年の学年集会で、私から3年生には、将来、大分県や竹田市、豊後大野市、阿蘇や産山が「憧れの地」と言われるように、地域に貢献することも視野に入れた人生を歩んでほしい、という願いをしました。しかし、自分の愛着のある地に貢献するといっても、貢献の仕方は一通りではありません。

これからお話をいただく、菊池優太さんは、本校の出身で皆さんの先輩に当たりますが、現在は出身の竹田市に住んでおられる訳ではありません。しかし、大分県の宇宙STEAM教育推進アドバイザーとして、県内の高校生に講師としてお話をされていることから、「ふるさと」への強い思いが伝わってきます。

今日の朝刊の、「宇宙産業支援を国に要望」「広瀬知事呼び掛け」という記事をTEAMSで読んだ人も多いと思いますが、本日の菊池さんのお話は、まさにその「宇宙事業」に関するものなので、皆さんには、是非、夢を大きくふくらませてほしいと思います。

また、同時に菊池さんの考え方・生き方に共鳴するところがあれば、遠慮せずに、菊池さんに、とことん「憧れて」ください。

皆さんの「憧れ」が大きければ大きいほど、皆さんの人生、そして竹田高校の未来は、輝きを増し、周りを明るく照らしてくれると思っています。

感動の多い時間になることを願い、校長の挨拶とします。

以上